

# 中国の高等教育機関における「内容重視」の会話授業の可能性

## 初中級日本語学習者のアンケート調査および PPT 発表の実践を事例として

樋 佳世（三重大学）

キーワード：内容重視、初中級日本語学習者、アンケート調査、PPT 発表、会話授業

### 1. はじめに

本発表は、中国の高等教育機関において初中級の日本語学習者を対象に実施した会話授業の取り組みの結果報告である。具体的には「内容重視（content-based）」の第二言語教育という考え方に着目し、学習者が日本語を用いて他校へのアンケート調査を実施したり、パワーポイント（以下 PPT）を用いた発表を行ったりする取り組みを授業で実践した。

内容重視の第二言語教育とは、第二言語教育の一義的な焦点を言葉の形ではなくその内容（情報）の理解・獲得におくこと（岡崎 1994）を指す。その基本的な根拠として、言語習得は意味のある文脈の中で目標言語によって提出される場合に最も促進されるという考え方にある。

アンケート調査や PPT の発表に関しては、一般的に日本語をある程度マスターした中上級の授業で実践されることが多い。しかし、嶋田（2015）は「学習者自身の言語活動があり、それを達成するために必要な文型・語彙があり、それを活用して言語活動を行うための練習をしている」と述べた上で「自分のことを語る/語り合うためにも、また描写、叙述、意見述べといった力をつけていくためにも、初級スタート段階から『テキストの型』をプロフィレンシーの視点で意識していくことが重要」と指摘している。そこで、今回は日本語学習歴 1 年未満の大学 1 年生を対象に「内容重視」という観点を会話授業に取り入れる可能性を考察した。

### 2. 先行研究

中国における会話授業に関する先行研究では、汪（2015）が「中国の日本語会話授業では、まだ教師・教科書主導型が根強い」と指摘し、授業の中で補助的視聴覚教材を使用して学習者同士のインタラクションの活性化を試みた事例がある。学習者は大学 1・2 年生で、実際に映画のパンフレットを見ながら自分の経験と結びつける形式で会話が展開されたと報告している。

また秦（2012）は、中国の大学における中級会話授業で事前課題と日本語母語話者の参加を導入した話し合いのグループワークを実施し、肯定的な評価を得ている。話し合いのテーマについては「大学生の知的レベルに適合し、中国の大学で学ぶ大学生として共通に直面している問題をデータとして取り上げたからこそ、もっと知りたい、だから調べる、そして聞きたいといったような学習者の能動性を引き出すことができた」と説明している。

一方、韓国では大学の日本語科 3 年生、学習者 48 名の中級の日本語会話の授業でプロジェクトワークを実施し、教師の指示した大テーマから各グループで小テーマを決め、資料集め・原稿作成・発表などを行った実践がある。この実践で、鴻野（2003）は「会話授業といっても、人数が多く講義や受身の授業に慣れている学習者たちに発話の機会を授業内で与えることは困難である。しかし、学習者一人一人は『話したい、話せるようになりたい』という意志は持っており、タスクを与えられればそれを達成するために積極的に活動を行うことができる」と指摘している。

日本では、多国籍の留学学部生を対象とした上級者向けの日本語の授業において、東日本大震災をトピックとした山森（2017）の実践がある。実践のねらいとして、明示的な言語指導よりも「日本語で学ぶ」内容学習に重きを置き、震災をテーマとして取り上げている。「自らを取り巻く問題に目を向け、解決法を考えることは多様性社会を生きていく市民として欠かせない」と山森は述べている。

今回の授業設計においては、上述の先行研究から抽出した「自分の経験と結びつけて」「大学生として共通に直面している問題」「自らを取り巻く問題」「タスクを与えられればそれを達成するために積極的に活動を行う」といったキーワードを参考にした。

### 3. 本実践の概要

#### 3. 1 授業内容

本実践は、2019年2月開講の「日本語会話」の授業の一部で行った。「日本語会話」の授業は、週2回で1回90分、全部で18週のコースである。本学期の授業目標が「～を説明することができる」であったことから、本実践の目標も「PPTを用いてアンケート結果を説明することができる」とした。具体的な活動内容は、表1に示す通りである。

<表1> 本実践の活動内容

回	活動内容	作業形態
1	「数字に関するアンケート」（質問紙）の実施・発表	個人
2	「大学生生活に関するアンケート」の調査内容・アンケート項目の作成	グループ
3	先輩からのアンケート項目に対する助言、アンケートアプリ <sup>1)</sup> の作成	グループ
4	「大学生生活に関するアンケート」クラス内発表と改善	グループ
5	他校 <sup>2)</sup> のアンケート結果とデータ整理	グループ
6	PPT発表 自他感想・質問表（コメントシート）の記入	グループ 個人
7	自他感想・質問表（コメントシート）への返信コメント記入 本実践授業に関するアンケートの結果報告と分析方法の振り返り	グループ 全体
8	自他感想・質問表（コメントシート）への返信コメントの共有	全体

#### 3. 2 対象学習者

本実践の対象学習者は、A大学の日本語教育専攻の男子3名、女子17名の大学1年生である。会話授業の他にリスニング<sup>3)</sup>と主に文法・語彙を学習する基礎日本語<sup>4)</sup>の授業を受講している。クラスは大学から日本語を学習し始めた学生が大半を占め、本実践時の日本語学習歴は1年未満である。

### 4. 本実践の成果

#### 4. 1 学生の考えたアンケート調査内容

本実践が初のグループワークであったことから、グループメンバーは学生たちの意志で決め、結果5つのグループに分かれた。アンケートの大テーマは、上述の先行研究のキーワードをもとに「大学生生活に関するアンケート」とし、学生たちは自身の興味をもとに小テーマを設計した。学生たちが決めた調査内容とPPT発表時に使用したタイトルは、表2に示す通りである。

<表2> 調査内容とPPTのタイトル

G5)	( ) について調査します 6)	PPT のタイトル
1	大学生はよくミルクティーを飲みます	大学生の飲食習慣
2	単身の方は異性の友だちが多い	大学生の性格
3	大学生は彼氏がいる？	大学生の恋愛観
4	大学生は社交家？	社交状況アンケート
5	大学生たちの毎月のローン金額	大学生ローンについて—大学生を対象とした毎月のローンの金額の調査を中心に—

#### 4. 2 自他感想・質問表（コメントシート）の内容

第6回目の授業において、PPT発表後の自分たちのグループに対する感想と他グループへの感想・質問をコメントシートに記入した。そして、第7回目の授業でクラスメートから出された感想を確認しあい、質問に回答する場を設けた。第8回目の授業では、各グループの発表に対して記入されたすべての質問を全員で共有した。実際に出された質問とその回答の一部を表3で紹介する。

<表3> 学生の他グループに対する質問とその回答の一部（原文ママ）

G	質問	グループからの回答
1	店が換えれば、カロリーも違いますか	わかりません
2	大学生の性格はどのように形成されますか	自分の家族の環境や生き立ちだと思います
3	何で大学生の恋愛観は前と違いますか	今は新しい時代、みんなは新しい思想を持っています
4	なぜ性格が違うのですか	さらに突っ込んだ研究が必要だ
5	どうしてこのテーマを研究していました	今の大学生のローンをするのは普遍です。そして、大切な問題です
5	天津と大連の学生は生活金額が同じですか	いいえ、金額は違います

#### 5. 本実践に対するアンケートの結果

本実践に対する学生の感想を集めるべく、学生が使用した同じアンケートアプリを使ってクラス全員を対象に本実践に関するアンケートを実施した。その結果、アンケート調査を難しいと感じた学生が69%、PPT発表を難しいと感じた学生が48%だった。また、具体的に難しかった点（複数回答可）については、アンケート調査では1位が文法、2位がアンケートの内容を考えること、PPT発表では1位が発表の内容を考えること、2位が発音との回答だった。

「新しい言葉を勉強したか」という質問に対しては74%が「はい」と回答し、具体的な例として「ミルクティー」「恋人、遠距離、中身」「欠如、孤独、聞き手、話し手」「ローン、返済」などアンケート項目に関する語彙や、「まとめ」「割合」「対比」「に関して」など発表に必要な語彙が挙げられた。

また、他大学のデータに「興味がある」と回答した学生は90%、「他大学と交流する勉強がしたい」と回答した学生は95%に達した。その他、本実践に関する自由記述例の一部を以下に示す。（原文ママ）  
 ・今回の調査によって、私の単語の蓄積、発音、文法を大いに向上させました。

- ・新鮮な体験ですね！みなさんはすごいですね。この方法とおりに勉強したことが好きです。
- ・自己知道的単語太少，觉得很难（自分の知っている単語があまりに少ないので、難しかった㊦）
- ・这次的调查非常有趣，大家不仅可以学习日语还可以一起合作~  
（今回の調査はとても面白く、みんなで日本語を勉強しただけでなく一緒に協力もできた～㊦）
- ・现在我的知识水平和词汇量，不能很好的把想好的话变成简单易懂的日文。还有就是，在发表的时候，只会念稿子，而一些需要临场发挥的内容我说不出来，因为语法的一些问题  
（私の今の知識と語彙量では、言いたいことがなかなか分かりやすい日本語にできない。発表時は文法力が足りなく原稿を読むだけで臨機応変に対応できなかった㊦）

## 6. まとめと課題

本実践の中で、学生たちはお互いのグループの PPT の内容に関心を持ち、積極的に質問や感想をコメントシートに書くことができた。また本実践に関するアンケート結果からも、多くの学生がアンケート項目や発表の内容を自ら考えるという「内容」の重要性に気づくことができた。特に自由記述では、PPT を作成した達成感や自己肯定感を得ると同時に、自分の文法力や語彙の少なさを痛感したとの感想もみられた。

本結果から、「内容重視」の会話授業が学生のモチベーションアップや自律学習の推進といった課題に一定の効果があると言えるだろう。今後は、「内容重視」の会話授業で日本語教師は、具体的にどのような役割を果たし、他校とどのような協力ができるのか、さらに研究していきたい。

## 注

- 1) 使用したアンケートアプリ：問卷网 <https://www.wenjuan.com/>
- 2) 大連 B 大学の第二外国語として日本語を専攻している学生 59 名にご協力頂いた。
- 3) 日语听力：会話授業と同じ授業時間数の週 2 回の 1 回 90 分、合計 18 週のコース
- 4) 基础日语：教科書は「新編日语 1」を使用。週 4 回の 1 回 90 分、合計 18 週のコース
- 5) G：グループ番号に対応。
- 6) 第 2 回目の授業で調査内容を考える時使用したワークシート「( ) について調査します」から抜粋。
- 7) 中国語は中国人日本語教師の同僚に訳してもらった。

## 参考文献

- 汪夢情 (2015) 「中国での日本語会話授業における学習者同士の会話活動を重視する授業づくり-補助的視聴覚教材の使用を手がかりに-」, 『日本語教育方法研究会誌』, 22(1), 38-39
- 岡崎眸 (1994) 「内容重視の日本語教育-大学の場合-」, 『東京外国語大学論集』, 49, 227-244
- 鴻野豊子 (2003) 「人数の多い日本語会話授業での試み-プロジェクトワークを通じて-」, 『明海日本語』, (8), 61-69
- 嶋田和子 (2015) 「談話能力の育成をめざした教育実践-初級スタート時から談話教育を考える-」 鎌田修・嶋田和子・堤良一 (編) 『プロフィシエンシーを育てる 3 談話とプロフィシエンシー その真の姿の探求と教育実践をめざして』, 174-200, 凡人社。
- 秦松梅 (2012) 「中国人学習者は事前課題と日本語母語話者の参加を取り入れたグループワークによる内容重視の会話授業をどう受け止めたか-中国の大学における日本語専攻クラスの場合-」, 『言語文化と日本語教育』, 44, 21-30
- 山森理恵 (2017) 「内容を重視した日本語授業の試み-東日本大震災をトピックとして-」, 『日本語教育方法研究会誌』, 23(2), 48-49